

金ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2021/12/13号

一般社団法人日本貴金属マーケット協会 池水雄一



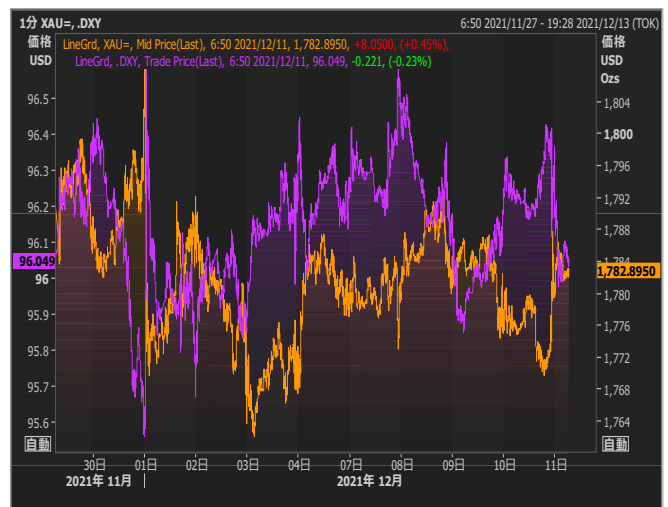
【ゴールドマーケットの現状】

米11月CPI 6.8%、39年ぶりの伸び

SPDR Gold Shares円建価格



ゴールドとドルインデックス



金曜日に発表されたCPI待ちの一週間であったと言ってもよいでしょう。発表された数字は年次で6.8%と市場予想通りでしたが、月次では0.8%と予想の0.7%を上回る数字でした。6.8%というCPIの伸びは1982年6月以来ということで39年ぶり。やはりインフレはもはや否定しがたい状況。これを受けてゴールドは1770ドル台から1780ドル台まで上昇して一週間が終わりました。先日のFRB議長の会見でのパウエル議長がインフレが一時的なものではないということを確認、それをさらに追い打つようなこの数字に、テーパリングの加速、そして来年半ばの金利上げまでの道筋はほぼマーケットには織り込み済みとなりました。多くの投資家はインフレがもはや目の前の危機であり、今まで信じていたような一時的な出来事ではないと理解し始めてきています。FRBもECBもBOJも、インフレは過渡的なものとみていただけにその対処は後手に回っていると言っていいでしょう。ただし中央銀行としては金利を上げる前に経済を停滞させるわけには行かず、テーパリングと金利上げという今後のオペレーションとインフレの進行とのバランスは非常に難しいコントロール加減になります。マーケット参加者の中には、景気の減速を防ぐという意味では、来年半ば（6月）の金利上げは難しいのではないかとこの見方も強く、今週のFOMCでのインフレに対する評価および今後のタイムスケジュールをどうするのかにマーケットの関心は集まります。ゴールドにとってのベストシナリオはインフレの上昇がゆるやかに進んでいき、FRBの利上げのタイミングが遅れることでしょう。いずれにしてもインフレヘッジとしてのゴールドの役割がふたたび取り上げられていくという流れになるのではないのでしょうか。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクリーマー）をお読み下さい。

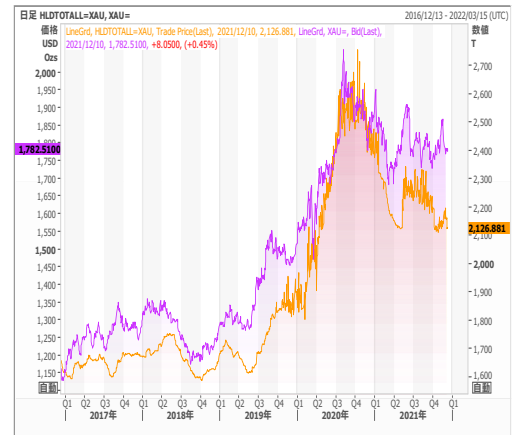
金ETF証拠金取引|WEEKLY REPORT

【マーケット・トピック】

ゴールドの需要と供給 (9) 取引所取引

現物への投資に対して、取引所取引での売買は先物取引が基本です。取引所で行われる先物取引は、定型化されたコントラクトの取引となり、たとえば世界最大のComex (Commodity Exchange: 現在はCMEの傘下)でのゴールドの先物取引は1contract 100オンス (約3.1kg)の決まった未来の決済日の条件での取引です。定型化されたことにより、参加者が取引しやすくなり、そこに流動性が生まれます。Comexではnearby monthと呼ばれる期近の取引限月が最も活発な取引となり、アクティブマンスと呼ばれます。Comexのアクティブマンスは実質的に世界のゴールド価格形成の中心にあると言っていいでしょう。

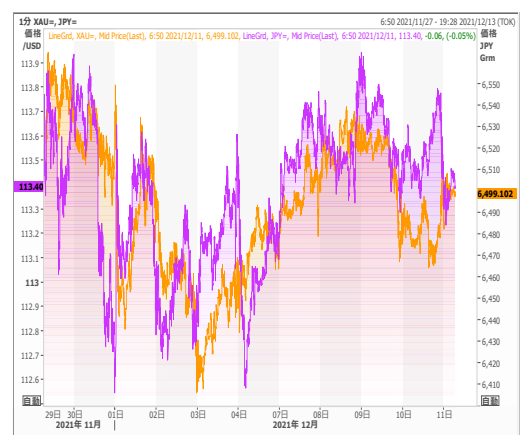
先物取引の最大のメリットは、証拠金 (margin money) と呼ばれる「担保金」を現物価格の10分の1くらい預ければ、フルサイズの取引が可能になる、レバレッジ効果 (てこの原理) です。つまり少ない資金で大きなポジションを持つことができ、資金運用を目的にしている機関投資家やプロにとっては非常に効率的なマーケットとなっているのです。もちろんこれは裏返せば「ハイリスクハイリターン」な取引であり、万人に勧められるものではありません。しかし現実として、ComexのGold Futures (先物取引)には世界中のプロの資金が集まってきており、彼らが動かすComexのゴールド価格が、世界のゴールド価格の中心にあるのです。そのため、彼ら特に資金運用をメインな目的としているヘッジファンド (managed moneyとカテゴライズされています)がComexに持っているポジション、ロング (買い持ち) ショート (売り越し) の状況はゴールドの価格の動きに直接的な影響を与えます。過去10年間でみると最大のロングは900トン前後、最大のショートが320トンという大きな幅がありますが、基本的にはファンド筋はショートよりもロングの方が圧倒的に多く、先物市場は大きな買い手としてマーケットに存在していると考えてよいと思います。年間の鉱山生産量が3500トンから4000トンであることを考えると先物市場のポジションは少なくとも短期的は大きな影響力があります。



Gold ETF残高とゴールド価格



米長期金利とゴールド



円建てゴールドとドル円

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項 (ディスクレマー) をお読み下さい。

【ディスクレーマー（免責条項）】

本レポートは、本取引所が一般社団法人日本貴金属マーケット協会から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、一般社団法人日本貴金属マーケット協会に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、一般社団法人日本貴金属マーケット協会（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することによるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 一般社団法人日本貴金属マーケット協会（Japan Bullion Market Association）

【所在地】 〒103-0016 東京都中央区日本橋富沢町11-15-503

【URL】 <http://jbma.net>

【E-mail】 info@jbma.net

池水雄一（いけみず・ゆういち）プロフィール

1962年生まれ兵庫県出身。1986年上智大学外国語学部英語学科卒業後、住友商事株式会社入社、その後1990年クレディ・スイス銀行、1992年より三井物産株式会社で貴金属チームリーダーを務める。2006年よりスタンダードバンク東京支店副支店長、2009年に同東京支店で支店長に就任。2019年9月より日本貴金属マーケット協会（JBMA）代表理事に就任。一貫して貴金属ディーリングに従事し、世界各国のプリオン（貴金属）ディーラーでブルース（池水氏のディーラー名）の名を知らない人はいない。

最新情報は
ツイッターで

